

1999年6月8日火—7月25日回

休館日 6月13日(日)、14日(月)、21日(月)、28日(月)、
7月5日(月)、11日(日)、12日(月)、19日(月)、21日(水)

開館時間 午前9時—午後5時(入館は4時30分まで)

入館料 一般 300(240)円、小中学生 100(80)円

※65歳以上の方及び障害者の方は無料

※()内は10名以上の団体料金

※第二、第四土曜日は小中学生無料

特別展

浮世絵師たちの神仏

— 錦絵と大絵馬に見る江戸の庶民信仰 —



上：天の岩戸図絵馬（谷原高野台氷川神社）

右下：歌川国芳 筆 正受院の蓑衣婆

左下：歌川国芳 筆 那伽摩那尊者

渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421



歌川国芳 筆 七福神岩戸の蔵開



歌川国芳 筆 観世音霊験 一ツ家の旧事

宗教美術の衰退期と見られがちな近世においても、江戸が中心となる後期になると、先例にとられぬ、斬新な作品が生み出されます。絵画の分野においてその重要な部分を担ったのは、意外にも最も世俗的な描き手である町の浮世絵師たちでした。

浮世絵師の本領は美人画や役者絵にあります。流行神や社寺開帳の参詣風俗を描くもの、疱瘡や麻疹よけのまじない絵、俗信にもとづく鯰絵や有卦絵、あるいは伝統的な画題である観音や祖師たちの霊験絵など宗教的テーマを扱うものも多数描いており、そこには江戸庶民の素朴な信仰を反映した魅力的な造形が見られます。そのような安価な浮世絵に描かれることによって、庶民には縁遠い存在であった崇高な宗教画が、ようやく伸ばせば手の届く親しみやすいものになったのです。

また、大寺社に掲げられ、庶民の注目を集めた大絵馬は絵師にとっても腕の見せ所であり、様々な画題が描かれてきましたが、本展では天の岩戸と八岐大蛇退治の神話を描くものに焦点を絞りました。神話はそれまでほとんど描かれることのなかったテーマですが、近世の大絵馬に盛んに描かれるようになり、特に浮世絵系の絵師が筆をとるようになる後期になると、錦絵の影響を受けて新たな展開を見せます。

この展覧会では、宗教的テーマを扱う浮世絵作品を、①宗教説話画の近世的展開（観音霊験記、地獄絵、神話の絵馬など）、②疫病よけの願い（疱瘡絵、麻疹絵）、③流行神（お竹大日如来、正受院奪衣婆）と参詣風俗の記録、④鹿島神と鯰絵、⑤諸神の図像（福神、福助と有卦絵）の五つのジャンルに分類してその広がりを見せながら、これまで注目されることの少なかった浮世絵師たちの残した宗教表現を検証しようとするものです。



歌川国芳 筆 八郎大明神回向院にて開帳の図



歌川国芳 筆 於竹大日如来



歌川国芳 筆 武勇見立十二支素戔雄尊

講演会

6月19日(土) 午後2時より「近世の庶民信仰について」宮田登氏(神奈川大学教授)

美術映画会

6月20日(日) 午後2時—3時「国宝 法隆寺Ⅰ、Ⅱ」

7月25日(日) 午後2時—3時「国宝 東大寺Ⅰ、Ⅱ」

美術相談

6月12日(土) 午後2時—4時 講師／西嶋俊親(油彩)、松島靖(水彩)

7月10日(土) 午後2時—4時 講師／佐藤善勇(油彩)、北尾和子(水彩)

渋谷区立松濤美術館



JR渋谷駅下車徒歩15分／京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分